

Hop Step Jump

4

初任者研修第 5 回授業づくり② アンケートの感想から

7 月 22 日と 28 日に、池田市のアゼリアホールを会場に初任者研修第 5 回授業づくり②が行われました。今回のテーマは道徳の授業づくり、講師の先生は、小学校は四天王寺大学教育部教育学科の杉中康平准教授、中学校は大阪教育大学附属天王寺中学校の吉田雅子先生、小学校中学校に分かれての研修でした。

道徳の理論から、教材資料の構造、授業づくりの観点まで深い学びがありました。2 学期から実践してみます。

資料を通して内容項目の設定の仕方や、中心発問をどうするかを考えることができ良い時間になりました、心情の変化がはっきり変わるところにスポットをあて、これからまた授業作りをしていきたいです。

読み物資料として、小学校では『森のともだち』『ブラッドレーの請求書』、中学校では『いつものバイオリン』を利用し、読み物資料の何をどのように読み取るのか、また、発問をどう組み立てればいいのか、グループでの演習を通してとても具体的にわかりやすくお話いただきました。

改めて道徳の授業づくりの難しさ・おもしろさを学びました。発問の仕方によって生徒からでる答えも変わってくるし、何を中心発問に持ってくるかによって、ねらいも変わってくることを学びました。教師がしっかりと資料を読み子どもたちに何を学ばせたり、考えさせたいかをよく考えて授業づくりをしなければならないと思いました。また、子どもたちをより話に引きこませる工夫を多く学びました。ありがとうございます。

「子どもたちに何を学ばせたり、考えさせたいのかをよく考えて授業づくりをしなければならない」これはどの授業にも大切な観点です。一時間の授業の前後で子どもたちにどのような気付きを与えたいのか、『森のともだち』の模擬授業では、「友だちって何」に対するみなさんの答えがより具体的に変化していました。模擬授業を受けた先生ですら、自分の変化に気が付き心が温かくなる。これが『心の Before-After』というわけです。

道徳の授業を落ち着いて、子どもの本音が出せるように学級づくりをしていきたいと思いました。また、道徳を考える中で、国語にならない、終末の仕方、内容の深め方など、様々なことを学ばせて頂きました。難しいと思い取り組んでいましたが、もっと子どもに考えさせたいことを明確にしてやればいいということも学びました。ありがとうございました。

『ねらい』を明確にして『シンプルに』です。

道徳の授業は教えるのがむずかしいと思っていましたが、今日の研修を通して、おさえるポイントさえわかれば発問などもシンプルにするほうがわかりやすいと感じました。授業で学んだことを生活の中で活かせるよう指導していきたいです。

先生方のグループワークを見ていて、みなさんが生き生きと内容項目について検討したり、中心発問について議論したりする姿はとても素敵でした。3 時間あればグループ討議もたっぷりすることができます。

グループの人たちと一緒に教材を検討したり、模擬授業を見たり普段できないことがつまった研修でした。「こうやって教材研究をすればいいんだ」と思ったり、「こんな発問をしたらいいんだ」と思ったり、学びがつまった研修でした。

また、班にまわってきた講師の先生に優しく助言いただいたことも良かったようです。

道徳に限らないですが、クラスでもグループを活用することで、人の考えの違いに気が付いたり、文章の読み取りや心情の理解が苦手な人でも、グループ討議に参加する中で「そういう考え方もできるのか」と気が付くチャンスになるかもしれません。安心して自分の考えが言え、人格を否定されない職場や、間違ってもばかにされないクラスを作ることもやはり大切なのでしょう。この研修をきっかけに、さらに研究をすすめてもらいたいと思います。

なお、今回、会場の都合でスクリーンが見にくかった方も少なからずいらしたようです。ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。